

SC-S30650/SC-S50650/SC-S70650

メディアのセット方法

エプソン販売株式会社

●メディアのセット状態、またそのメディア毎に合わせる設定が正しくない場合、次のような影響が印刷に現れます。

バンディング(横バンディング、色ムラ)

コックリング(ヘッドこすれ、縦バンディング)

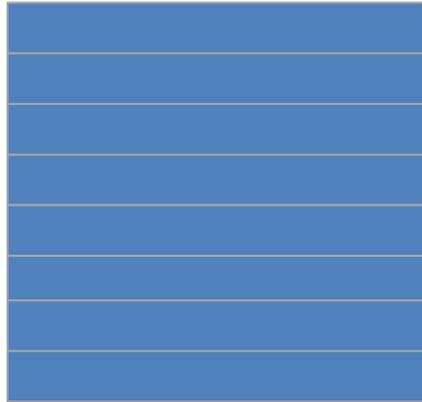
粒状感、ピントずれ、色ムラ

印刷長さ精度のずれ etc...

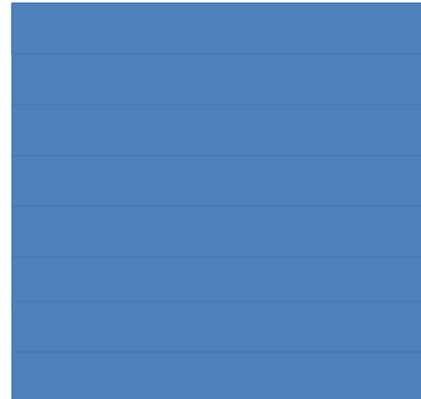
これらを防ぐためには、正しい方法でメディアのセットを行う必要があります。

<バンディング>

メディア送り方向



筋(すきま)



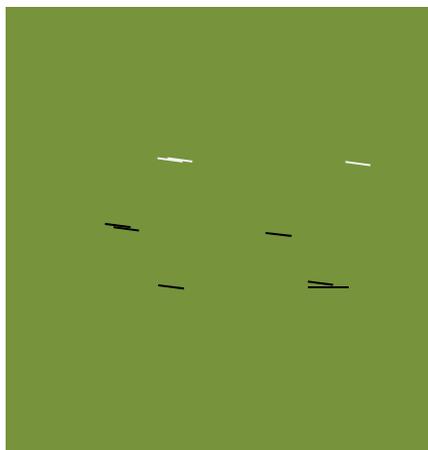
筋(重なり)



色ムラ

<コックリング>

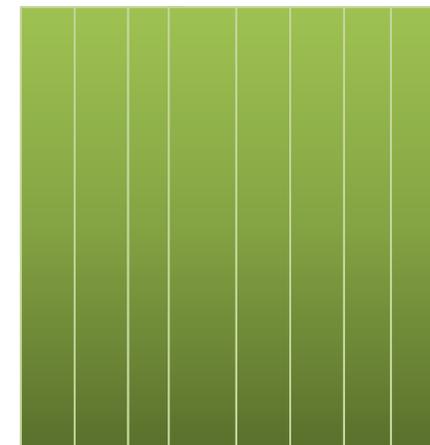
メディア送り方向



ヘッドこすれ



色ムラ

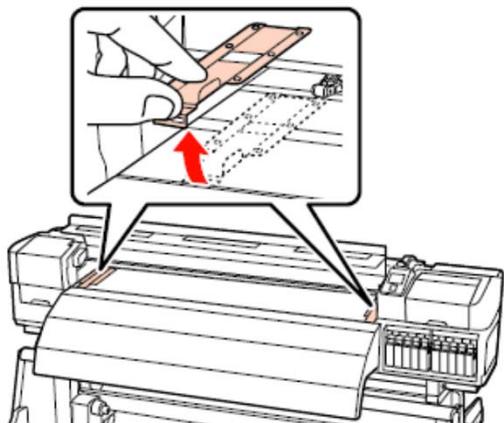


縦すじ

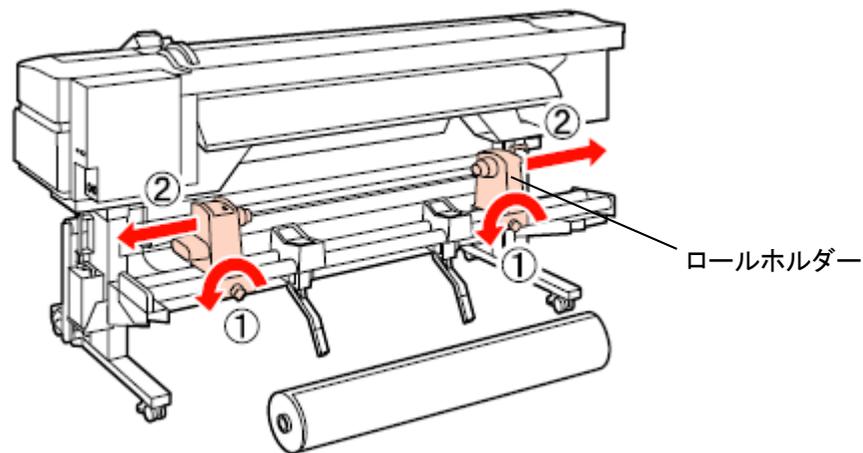
1 メディアの正しいセット方法

Step1: 前面カバーを開けます。

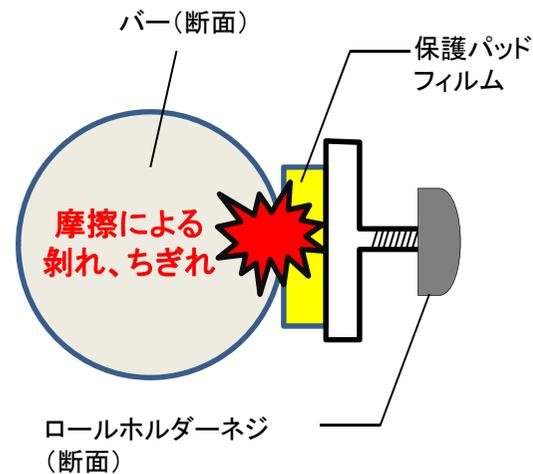
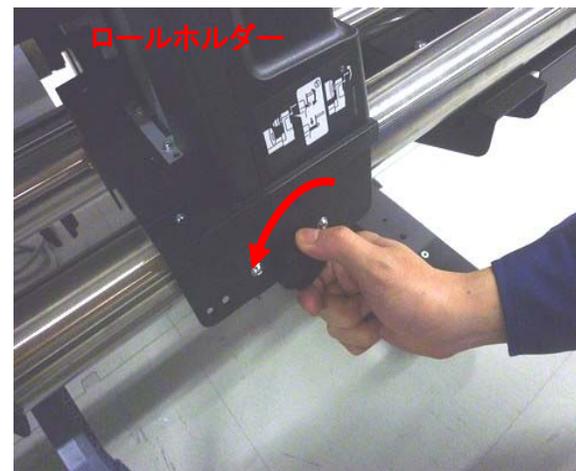
Step2: メディアおさえ板をプラテン両端に退避します。



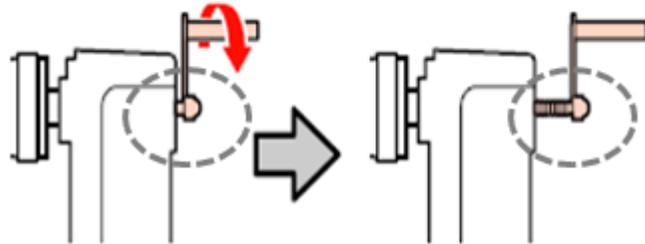
Step3: 左右のロールホルダーの固定ネジをあらかじめ十分ゆるめておきます。



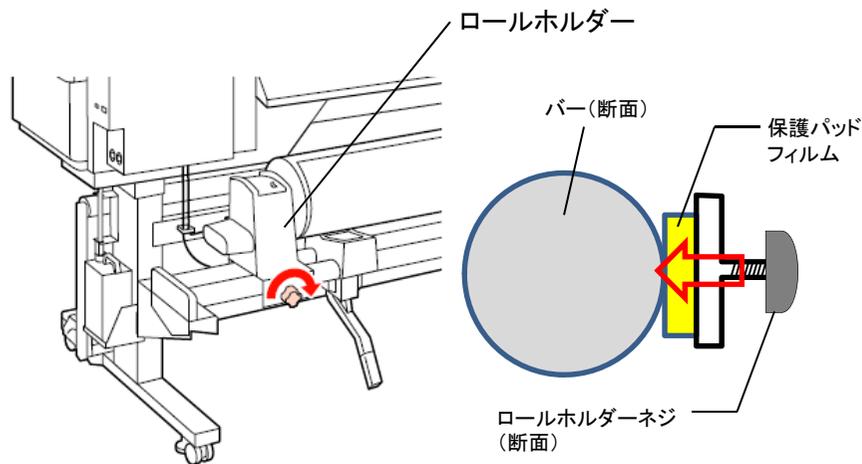
※ロールホルダーを横にスライドさせる場合は固定ネジを十分緩めてください。保護パッドフィルムが摩擦により剥れ、故障の原因となります。



Step4: ロールホルダーのハンドルを反時計方向にまわし、下図の破線部のようにネジきり部を露出させておきます。



- ・ここからの説明は、左側のロールホルダーが固定されている事を前提としています。
- ・ロールホルダーネジは「これ以上まわらない」というところまできつく締めます。ゆるみがあると動作中にロールホルダーが動いてしまい、バンディングやコックリング、印刷長さ精度のずれの原因となります
- ・固定ネジは保護パッドフィルムがついており、かなりきつめに締めても問題ございません。



ロール端部が下図のように揃っていない場合は、丁寧に揃え直します。メディアがジャムったり、印刷長さ精度のずれが発生する可能性があります。必ず直してください。

OKの例



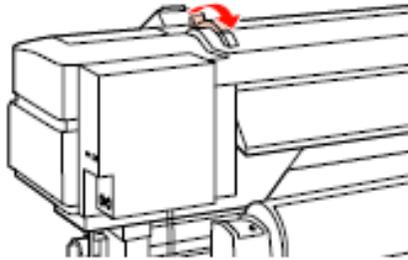
NGの例



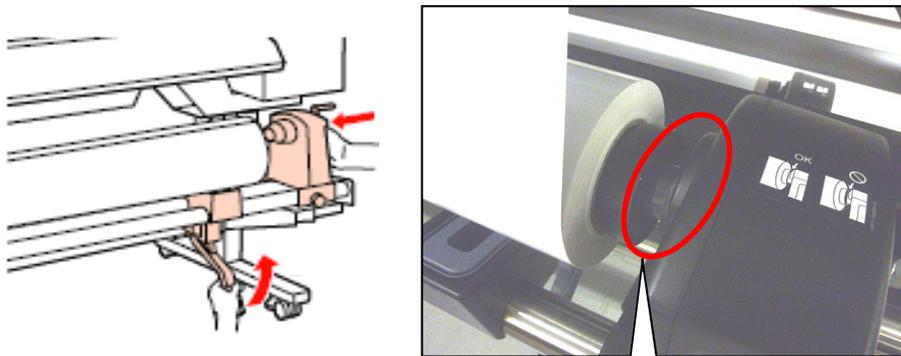
NGの例



Step5: メディアセットレバーを上げます

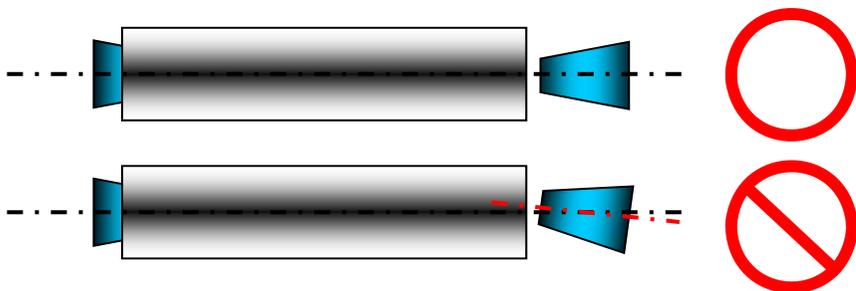


Step6: メディアをロールホルダーにセットします。



●ロールのコアとロールホルダーのフランジが斜めになっていないこと(まっすぐであること)

※正しくない場合、メディアがまっすぐに送られずバンディングやコックリング、印刷長さ精度ずれの原因となります。



Step7: 更にロールホルダー側面の中央部をロール側に「2回」押し、フランジをロールコア(芯、紙管)に十分に差し込みます。

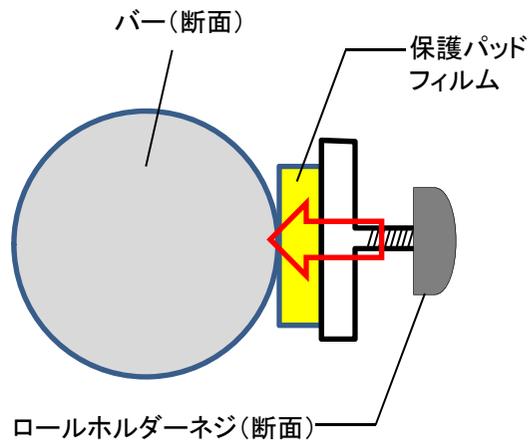
※ロールホルダーとロールの間にガタつきがあると、動作中に紙管とフランジが滑り、バンディングやコックリング、印刷長さ精度のずれの原因となります。



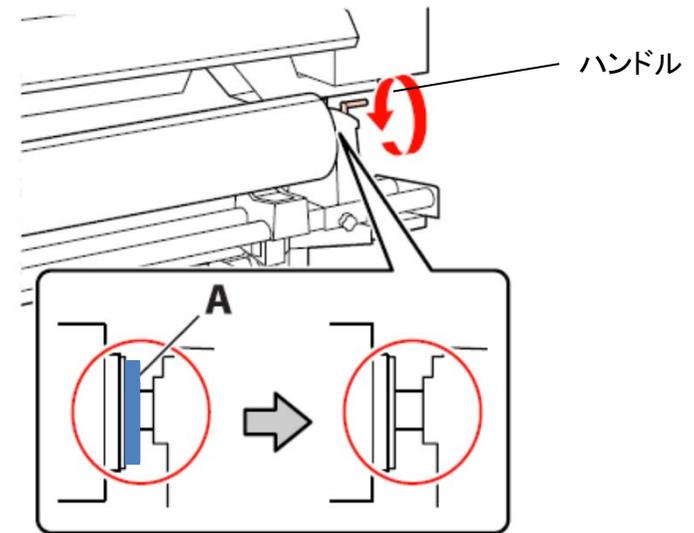
Step8: ロールホルダーネジを締めます。

ロールホルダーネジはしっかりと固定してください。

- ・ゆるみがあると動作中にロールホルダーが動いてしまい、バンディングやコックリング、印刷長さ精度のずれの原因となります
- ・ネジの先には保護パッドフィルムがついており、かなりきつめに締めても問題ございません。



Step9: ロールホルダーのハンドルをまわし、ロールを確実にホールドします。(下図のAの青色部分が完全に見えなくなるまでまわします。)



ハンドルを操作する前に、ロールホルダー固定ネジが十分に締まっていることを確認してください。

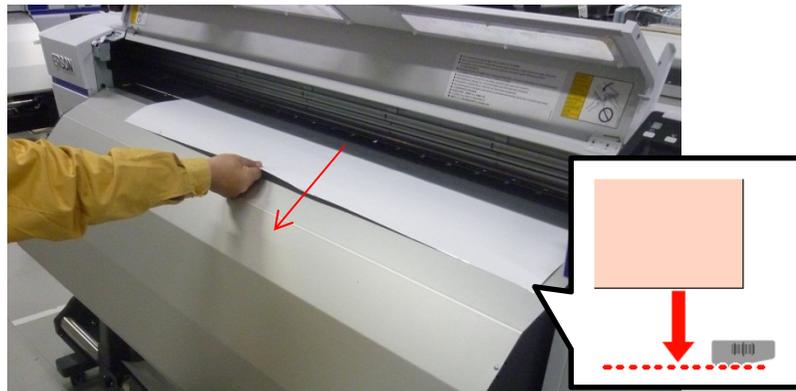
ハンドル操作時にロールホルダーが滑り、バンディングやコックリング、印刷長さ精度のずれの原因となります。

Step11: メディアの先端を「まっすぐに持ち上げて」プリンターに挿入し、メディアセットレバーをさげて仮固定します。



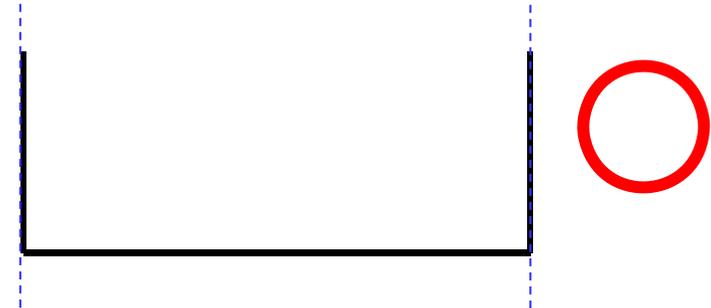
※図、写真とも背面から

Step12: プリンター正面にまわり、メディアセットレバーをあげ、ロール先端中央を引き出します。

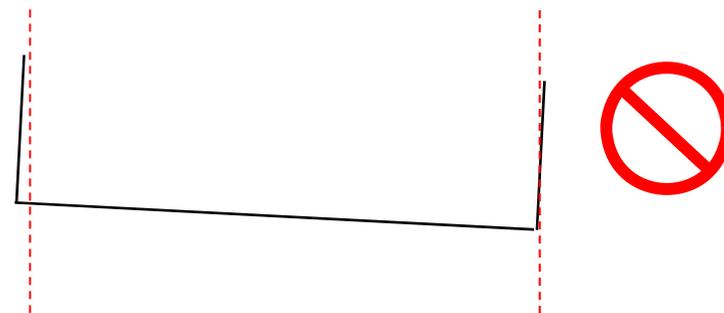


- ・メディア全体を均等に引き出すため、中央を持って引き出します。
- ・メディア自体の重みを感じ、たるみがなくなるところまで引き出します(概ね図のスケール目盛の位置)。長めに引き出さず、あくまで「重み」を感じるところで留めてください。
- ・長く出し過ぎた時はパネルスイッチで巻き戻してください。
- ・スケール目盛に無理やり合わせようとして、不自然な傾きがでないように注意してください(メディアの左右テンション不均一)。大きくずれている場合は、Step4からやり直します。

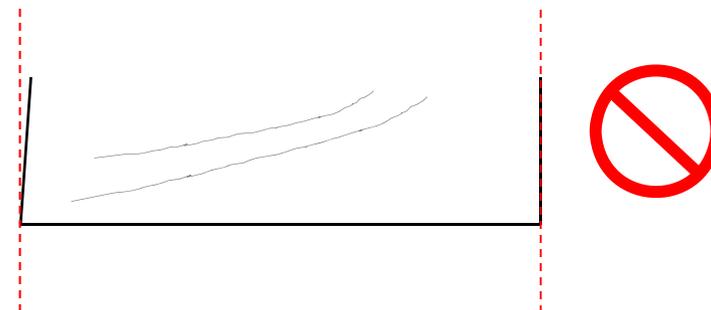
<例. まっすぐにセットされている状態>



<例. 斜めにセットされている状態(スキュー)>

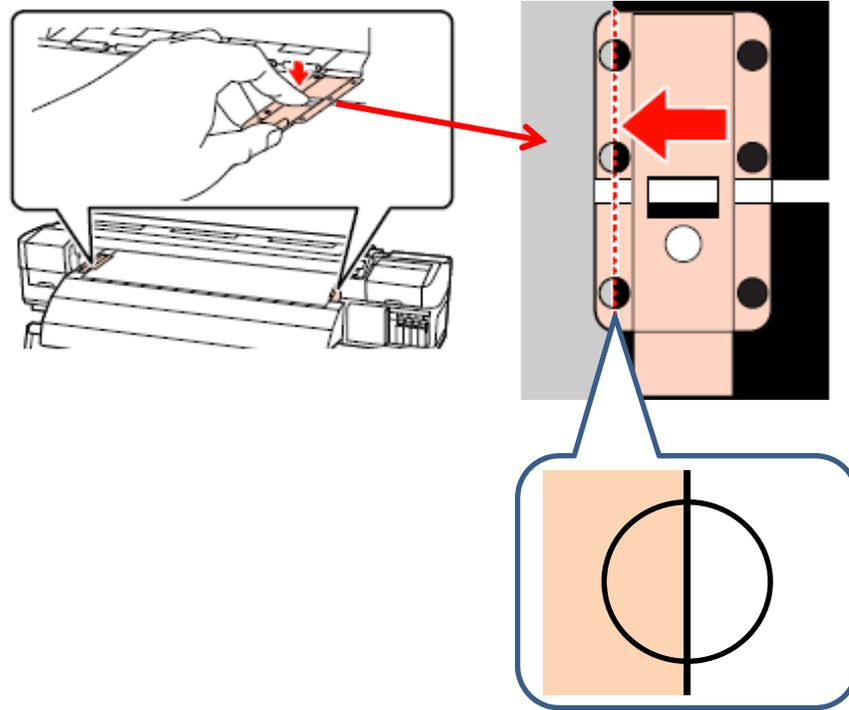


<例. 右端部を無理にまっすぐにした為、しわが発生し、片側がまっすぐでない状態>



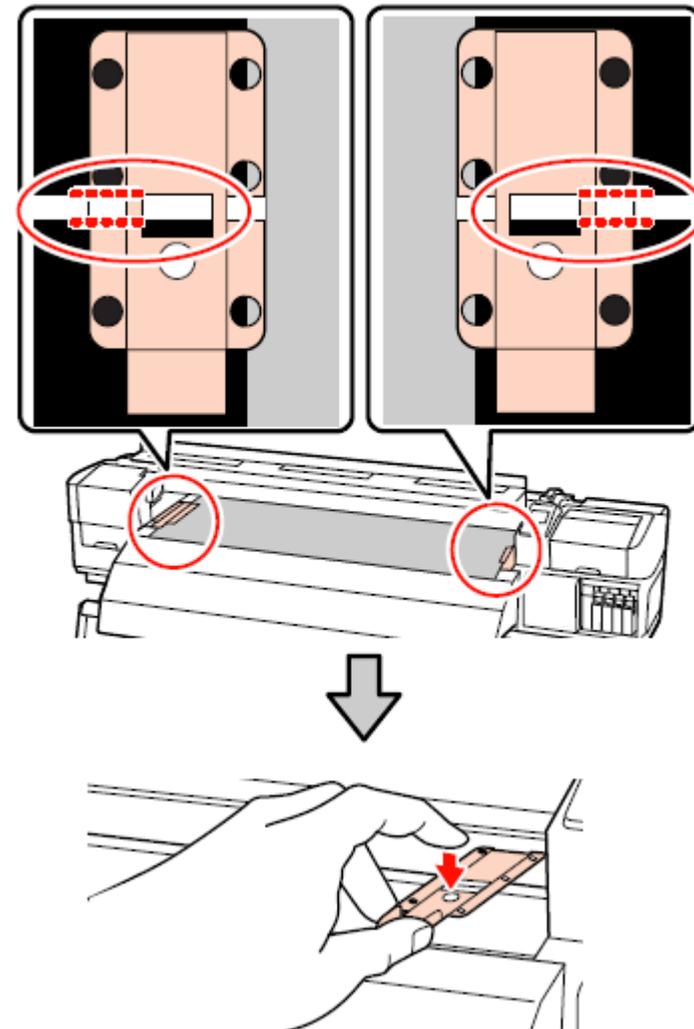
Step13: メディアセットレバーを下げます。

Step14: メディア押さえ板をセットします。丸い穴の中央にメディアの左右端が位置するようにしてください。



図のように丸穴からメディアの半分が見えるように(半月状)セットしてください。特にメディア押さえ板や、周辺のプラテン上に削られたようなメディアの層がある場合は、この板が適切にセットされていない可能性があります。

Step14: メディア押さえ板が浮かないように、押し込みます。(プラテンの白線と合せてセットします。)



メディアの厚さが0.4mm以上あるときはメディア押さえ板を使用しないでください。プリントヘッドこすれの危険があります。

2 メディアの正しい設定

メディアセット時の基本設定値です。しわの発生を防ぐには、必ずこちらの設定を反映してください。
表以外の組み合わせでは使用しないでください。

機種名	メディア種類	加圧ローラー設定 ※1	操作パネルのメディア設定					メディアテンション	ゴムおもり有無 ※2 ※3
			プラテン ギャップ 設定	吸着力	ヒーター温度設定				
					プリ	プラテン	アフター		
SC-S30650	塩ビ	—	1.5	4	40	40	50	15	おもり取付禁止
	透明フィルム	—	1.5	4	40	40	50	30	おもり取付禁止
	ターポリン	—	2.0	4	40	40	50	15	あり(左右各3個づつ)
	キャンバス	—	1.5	4	40	40	50	15	おもり取付禁止
SC-S70650 SC-S50650	塩ビ	弱	1.5	4	40	40	50	15	おもり取付禁止
	透明フィルム	強	1.5	4	40	40	50	15	おもり取付禁止
	ターポリン	弱	2.0	4	40	40	50	15	あり(左右各3個づつ)
	キャンバス	弱	1.5	4	40	40	50	15	おもり取付禁止
	コシの弱いメディア※4 浮きが発生するメディア※4	上記メディア に準ずる	上記メディア に準ずる	7	40	40	50	4	上記メディアに準ずる

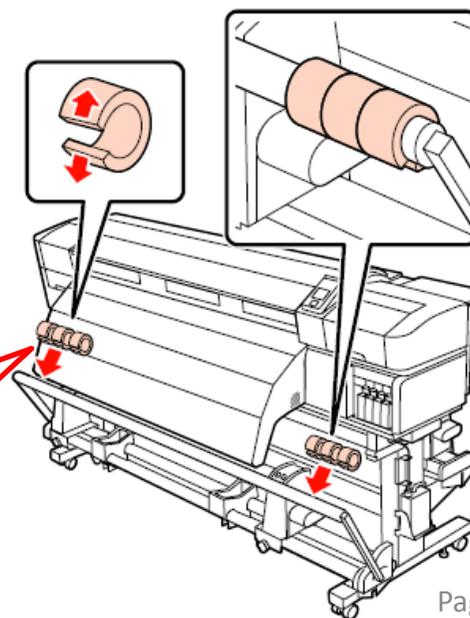
※1 加圧ローラーの設定については次ページを参照ください。

※2 ゴムおもりを取り付ける際は必ず、両側に左右均等に取り付けてください。片側のみの取付や左右で数が異なるなどの取付はおやめください。

※3 「おもり取付禁止」対象のメディアには、絶対におもりを取り付けしないでください。ヘッドこすれが生じる可能性があります。

※4 メディア種別のメディア設定基本値でうまくメディア搬送ができなかった際にお試しください。

- ・必ず3個セットで
- ・左右均等に
- ・錘は隣どうし離さずに

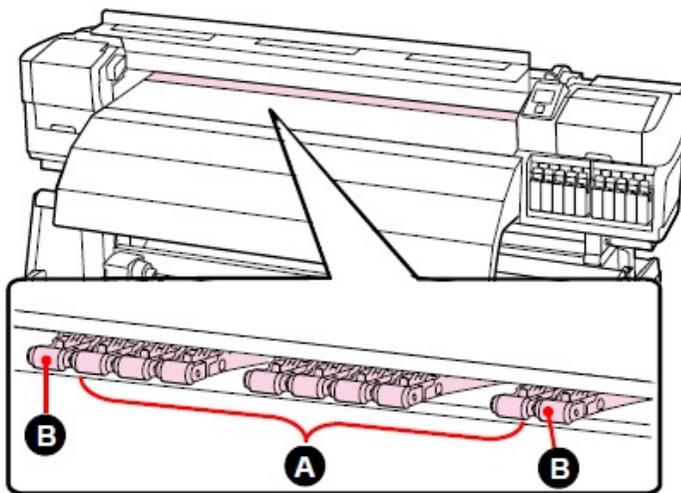


2 加圧ローラーについて (S706XX及びS506XXのみ)

S706XX及びS506XXIには、「加圧ローラー」が搭載されています。使用するメディアの種類や、印刷状況に応じて、加圧ローラーの設定を変えて使用します。前ページの表やメディア設定情報を参照して、設定してください。

加圧ローラーは使用目的にあわせてAとBの2種類あります。前面カバーを開けると、「加圧ローラー」と「黒い四角ラベル」が確認できます。

※S306XXは構造が異なる為、この機構は搭載していません。

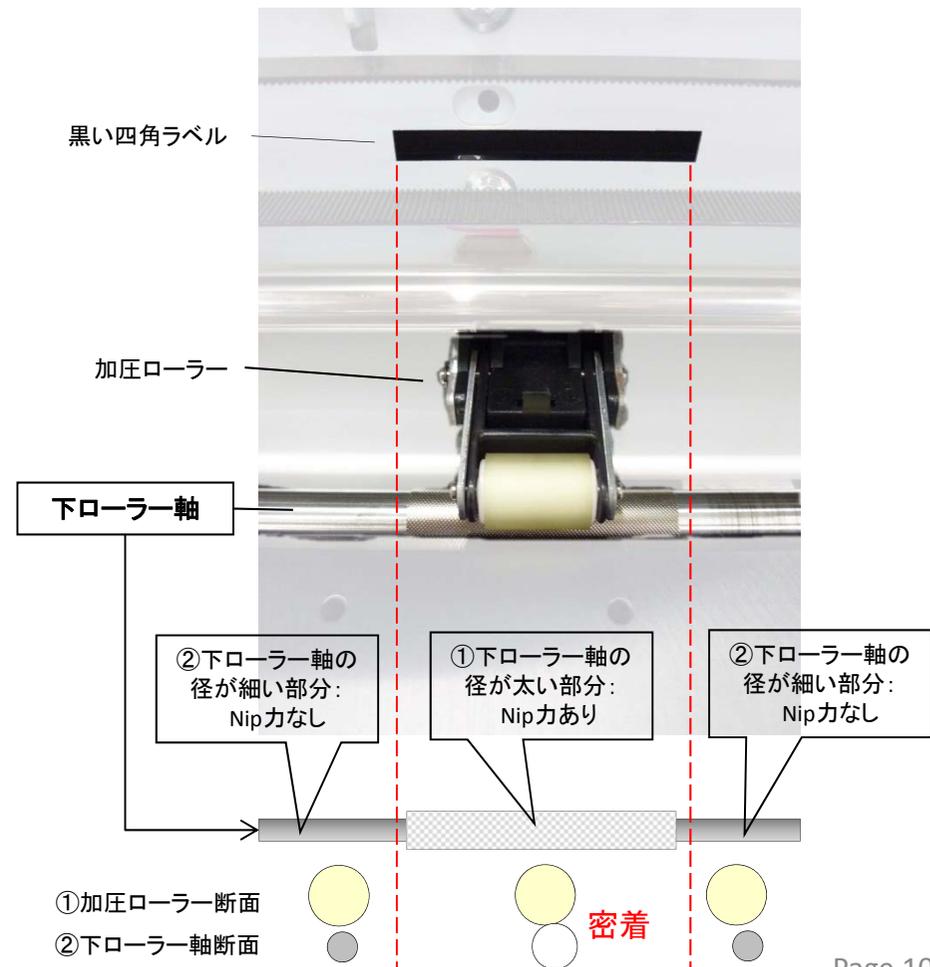


加圧ローラーのしくみ

①下図のように黒い四角ラベルのある部分では、加圧ローラーと接する②下ローラー軸の径が「太い」ため、ローラーどうしが密着します。これによりメディアを挟んで搬送する力=Nip(ニップ)力が発生します。

②一方、黒ラベルのないところでは、下ローラー軸の径が「細い」為、密着しません。従って黒ラベル以外の位置に加圧ローラーがある場合、Nip力は発生しません。

メディアの材質や幅に応じて、適正なNip力で搬送する為、加圧ローラーの位置や使用数を変える必要があります。

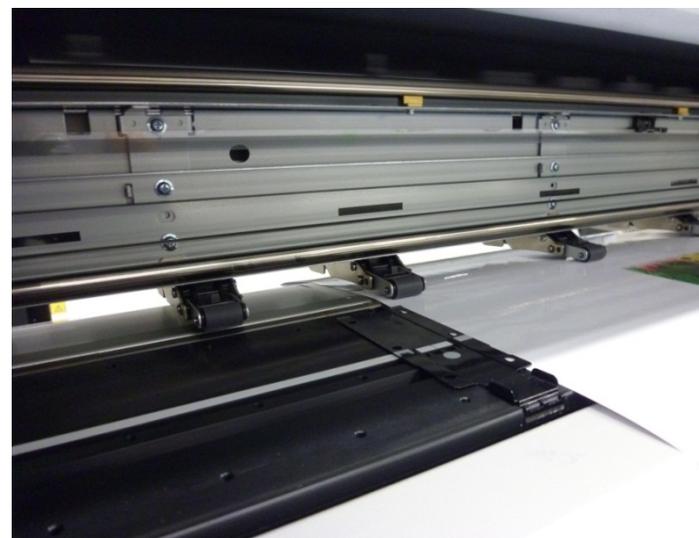
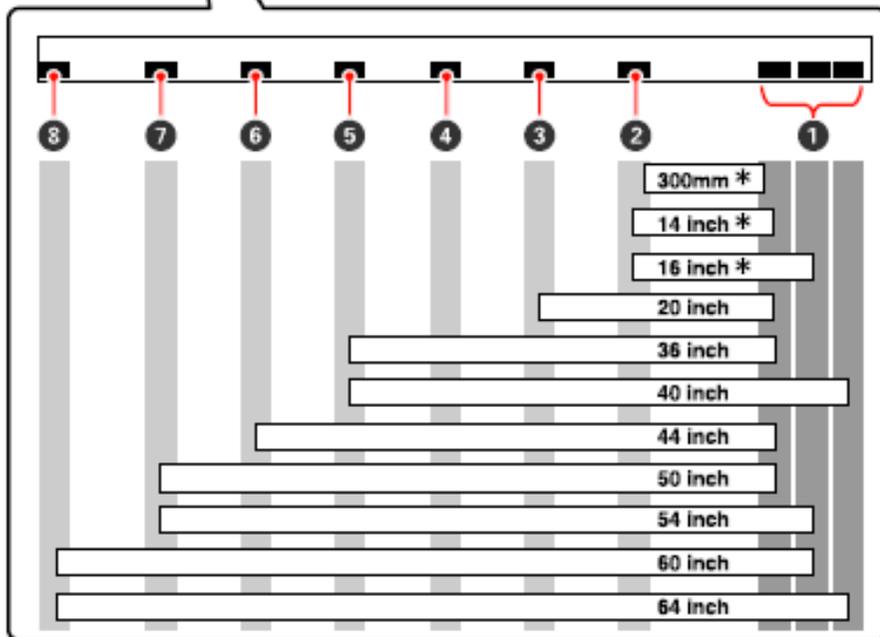


加圧ローラーの設定

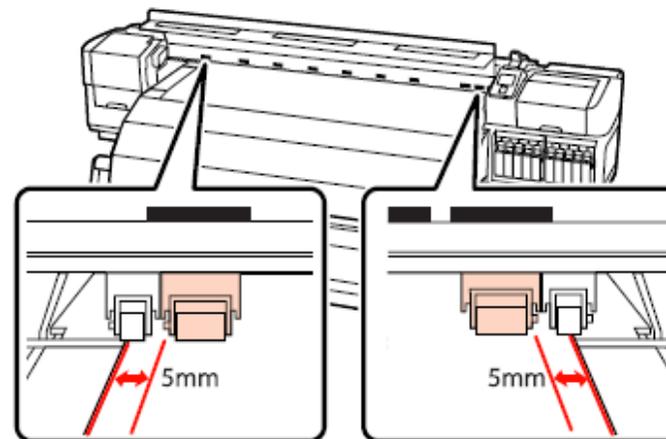
加圧ローラーの設定は、使用するメディアの種類や、印刷状況に応じて、「弱」と「強」の2つあります。

●「弱」設定： 通常設定

- ・Aのローラーのみを使用(Bのローラーはメディアの幅より外側に移動します)。
- ・メディアの幅にあわせ下図のように加圧ローラーを黒い四角のラベルの箇所にセットします。メディア幅によっては、ローラーが余ります。余ったローラーは黒ラベルのない箇所にセットします。



・メディアの両端部分のローラーは、それぞれメディア端から5mm 内側に位置するようにセットしてください。

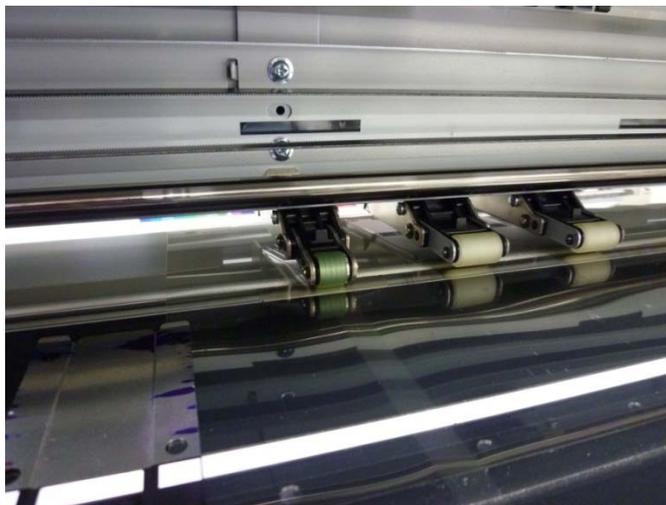


※1 レイヤー印刷及びフィルム以外のメディア使用時は「弱」設定を推奨します。

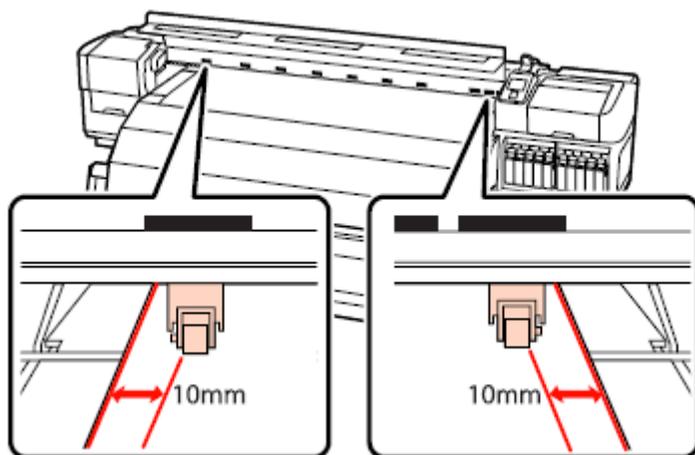
※2 フィルム以外で、「強」設定で使用すると、「ヘッドこすれ」が発生する可能性があります。

●「強」設定： 特殊設定

- ・透明フィルムメディア使用時、及びレイヤー印刷実行時
- ・Bのローラー（両端）のみを使用
- ・Aの加圧ローラーは黒い四角のラベルのない箇所にセットします



・左右それぞれのメディア端から10mm内側に位置するように加圧ローラーをセットします。



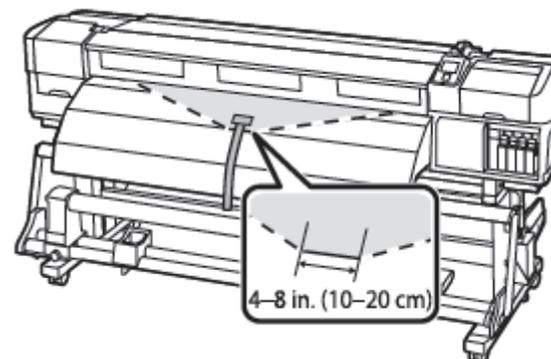
3 オプション自動巻取りユニットへのメディアの取り付け

Step1 紙管を自動巻取りユニットに正しく取り付けます。

紙管の取付においても「1. ロールの正しいセット方法」で示したロールホルダーへの取付のコツを反映してください。

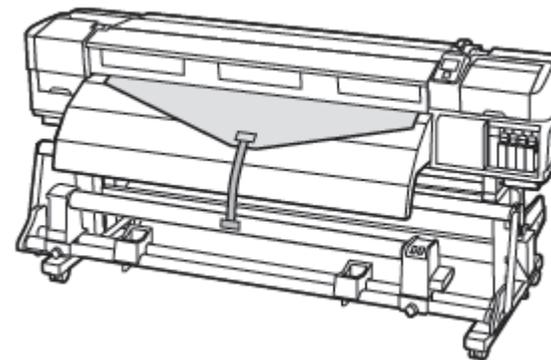
Step2 紙テープを長さ約60cmにカットして、メディアのほぼ中央に市販の粘着テープで貼り付けます。

Step3 メディアの先端の左右の角を、中央部分を約10cm～20cm残した状態でカットします。



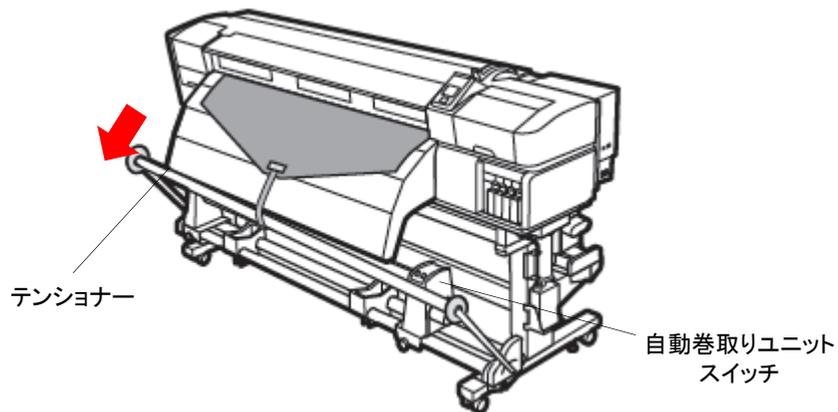
Step4 操作パネルの【↓】ボタンを押し続けて、紙テープの先端が紙管に届くまで送り出します。

Step5 紙テープを粘着テープで紙管に貼り付けます。
※内巻きで巻き取るときは、紙管の後ろ側に貼り付けてください。

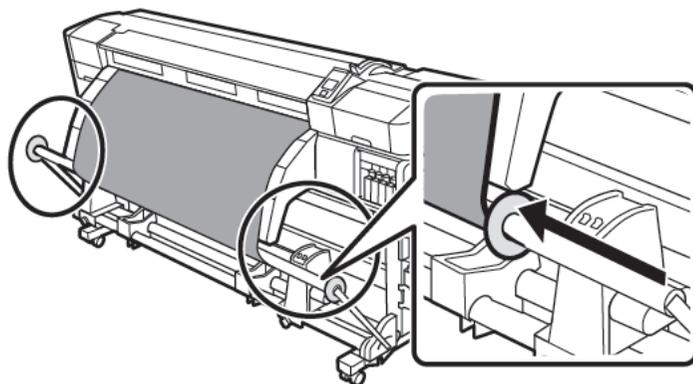


Step6 自動巻取りユニットのAuto スイッチをメディアの巻き取り方向に応じて切り替えます。

Step7 テンショナーを静かに倒します。紙テープが紙管から外れないように注意してください。



Step8 印刷開始後、メディアの両端が紙管に届き、1～2周巻き取られてから左右のテンショナーメディアガイドをメディアの両端に軽く当たるまで寄せます。

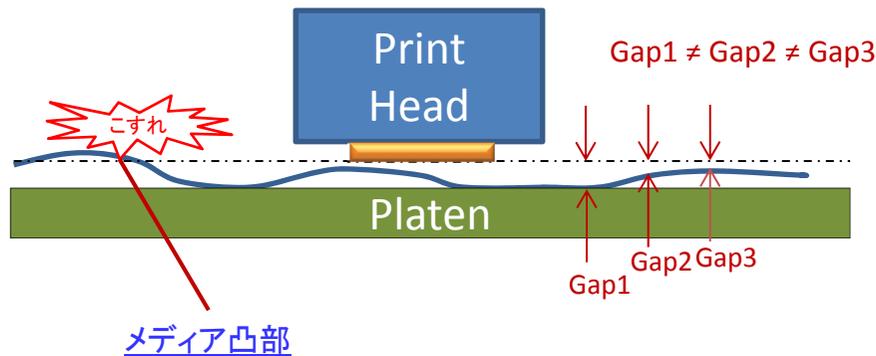


- ・テンショナーメディアガイドメディアに押し付けすぎると、正しく巻き取ることができません。
- ・付属の紙テープが終了したら、市販の紙テープ(伸びにくく切れにくいもの)を使用してください。

5 ヘッド擦れが起きた際の対処方法

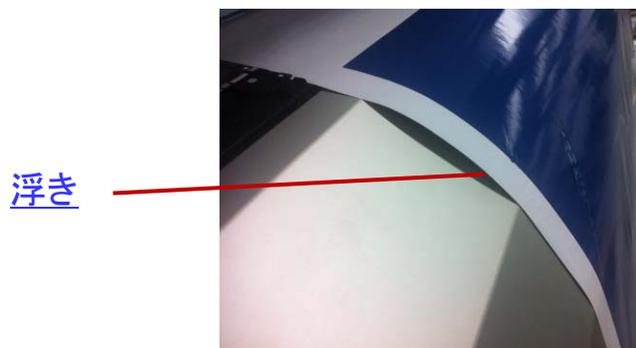
●ヘッドこすれとは

ヘッドノズル面と、メディア凸部が接触し、「ヘッドこすれ」となります。ヘッドのノズルがメディアに直接接触するため、インクの痕が残る上、最悪ヘッドノズルの破損に至ることがあります。



●ヘッドこすれ発生の原因

メディアのセット方法が正しくない場合、例えばテンション設定があっておらずメディアがピッタリ張り付いていない場合には「浮き」が発生します。またメディアは湿度や温度の影響を受けやすく、プリンターにセットしたまま放置するなど保存状態がよくないと、「しわ」や「波うち」なども発生します。浮きやしわがない状態に「メディアを正しくセット」することが重要です。



● 対処法



まずヘッドこすれが発生した場合は、速やかに印刷を中止し、ヘッドクリーニングを実行してください。



以下のような場合、メディア波うちの原因となることがあります。

- ・ヒーター温度がメディアに対して適正では無い(温度が高すぎる)
- ・ヒーターが冷めた状態でメディアをセットして、その後ヒーター温度があがる
⇒ ローラーで押さえられたメディアが温度で伸張し、広がれずに波うちとなる

1. しわや波うちのあるメディア部分は使用しない

- ・メディアのしわや波うちを未然に防ぐためには、保存状態が重要です。各メディアの取り扱い説明に従うとともに、プリンタに長時間取りつけたままにしないようご注意ください。
- ・しわや波打ちが発生しているメディア部分はメディア送り・カットする等にて使用してください。
- ・メディア設定のヒーター温度を下げる・吸着力を上げるなど、設定値の変更もお試ください。



2. メディアを正しくセットする

- ・製品及びメディア毎に、操作パネル上のメディア設定値や、おもり付けなどが異なります。本手順書記載の正しい設定でメディアをセットしてください。

○しわや、波うちのあるメディア部分は使用しない

- ・メディアのしわや波うちを未然に防ぐためには、保存状態が重要です。各メディアの取り扱い説明に従うとともに、プリンタに長時間取りつけたままにしないようご注意ください。
- ・しわや波うちのあるメディアは、その部分をカットして使用ください。

